

前回の議論を踏まえた主な論点

【論点1】基礎診断の望ましい姿と制度開始時点における必須要件

- ① **現在存在しない基礎診断という新たな枠組みを構築**する観点 及び
- ② **随時発展的に改善を行っていく（発展・開発を取り込んでいく）**という観点から、基礎診断の望ましい姿を明らかにしつつ、制度開始時点では、学校における測定ツール（認定された測定ツール以外の民間の試験等や定期考査なども含む。）の有効活用をいかに促すかを意識した要件としてはどうか。 → 別紙1（取組の全体像イメージ）参照
- そのため、各学校の選択に資する情報開示がなされることを重視した大括りの要件設定としてはどうか。
- 大括りの要件設定をベースとしながらも、個別具体の要件を設定すべき部分をどう考えるか。
→ 別紙2（大括りの要件と個別具体の主な実施内容（たたき台））参照

＜例＞ 対象教科・科目、出題範囲について

- ・ 制度開始時点では、国語、数学、英語を対象。
- ・ 共通必修科目を中心に、義務教育段階の内容からも出題。

【論点2】複数の測定ツールを組み合わせて活用することについて

- 必ずしも1つの測定ツールに全ての機能を持たせるのではなく、学校の選択により、様々な強みや特徴を持つ多様な測定ツール（認定された測定ツール以外の民間の試験等や定期考査なども含む。）を組み合わせて活用することを考えてはどうか。 → 別紙3（測定ツールの選択イメージ例）参照

高校生の基礎学力の定着に向けた取組の全体像イメージ(たたき台)

高等学校における基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの構築

- ・ 測定ツールの充実・効果的な活用 (学校側と民間事業者側の協議会の実施、分析のための教員研修など)
- ・ 義務教育段階の学び直しを重視したカリキュラム・マネジメント (学校設定教科・科目の活用など)
- ・ 学習意欲の喚起に資する指導・評価方法 (ポートフォリオ評価、ルーブリックの活用など)

} 等の研究・検討

「高校生のための学びの基礎診断」の枠組みの構築

様々な強みや特徴を備えた多様な測定ツールから学校の実情に合ったものを選択・活用

※必ずしも1つの測定ツールが全ての機能を備えるのではなく、学校の選択により組み合わせ活用することもある

総合型等
 合教科型
 教科型

望ましい姿

- ・ CBT-I RTによる実施 (適応型試験など)
- ・ 共通尺度による評価
- ・ 多様な問題レベルのセット

⋮

制度開始時点における必須要素の例

- ・ 学習指導要領を踏まえた出題方針の設定、出題方針に基づいた問題設計
- ・ 知識・技能を問う問題を中心に、思考力・判断力・表現力を問う問題を出題
- ・ 学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善に資する結果提供
- ・ 学校において実施可能で、学校にとって過度な負担が掛からない実施方法

⋮

英語 数学 国語

↑
 制度定着を図りつつ
 随時発展的に見直し

「高校生のための学びの基礎診断」の大括りの要件と個別具体の主な実施内容（たたき台）

	大括りの要件	申請の際に求める書類等	申請において確認するポイント	最終報告や実施方針等でこれまで示されてきた個別具体の主な実施内容（注）
出題に関するポイント	学習指導要領を踏まえた出題の基本方針（以下「出題方針」）を定め、出題方針に基づき問題が設計されていること。	<ul style="list-style-type: none"> 出題方針 ※ 実施する教科・科目毎に、学習指導要領との対応の他、出題の基本的な考え方（難易度や構成、測定しようとする力等）、基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫等についての記載を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> 出題方針は学習指導要領を踏まえたものとして作成されているか。 出題方針の内容とサンプル問題との間で齟齬がないか。 	<ul style="list-style-type: none"> （制度開始時点における）対象教科は国語、数学及び英語。 共通必修科目を上限に、義務教育段階の内容からも出題することを明らかにしていること。 知識・技能を問う問題を中心に、思考力・判断力・表現力を問う問題を出題することを明らかにしていること。 出題方針の中で学習指導要領との対応関係を明らかにしていること。
	試験等において測定しようとする力とともに、問題との対応関係を明らかにしていること。	<ul style="list-style-type: none"> サンプル問題 問題と出題方針との対応関係を示すもの（検証に用いたデータ等） 作問体制や工程管理の方法を示すもの 	<ul style="list-style-type: none"> サンプル問題と、測ろうとしている能力や出題の狙いとの間に齟齬がないか。 問題の質を保つための体制が整えられているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 記述式など多様な解答方式を設けることを明らかにしていること。 英語は4技能を測定することを明らかにしていること。 出題方針とサンプル問題との対応関係を明らかにしていること。 サンプル問題と、測ろうとしている能力や出題の狙いとの対応関係を明らかにしていること。 問題の質を保つための体制を明らかにしていること。
結果提供に関すること	学習の成果や課題が確認でき、事後の学習改善に資する結果提供がなされること。	<ul style="list-style-type: none"> 受検者個人への結果提供内容（帳票等） 学校に対する結果提供内容（帳票等） 	<ul style="list-style-type: none"> 受検者本人に対し、学習意欲の喚起に資する情報提供の工夫が示されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 受検者・学校に設問毎の解答結果及び正答（例）を提供すること。 学習意欲の喚起や指導の工夫・充実に資する情報を提供することを明らかにしていること。
	試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する評価の考え方と分析の手法を明らかにしていること。	<ul style="list-style-type: none"> 採点の方法と体制を示すもの 結果表示方法とその算出手法を示すもの 評価の示し方とその分析手法を示すもの 	<ul style="list-style-type: none"> 学校としての指導の工夫・充実に資する情報提供の工夫が示されているか。 提供される情報（結果や評価等）の妥当性について検証プロセスを経ているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 成績を段階表示で提供することを明らかにしていること。 過去の成績と比較可能であることを根拠に基づき明らかにしていること。 提供される情報（結果や評価等）の妥当性について検証プロセスを明らかにしていること。
実施に関すること	学校において実施可能で、学校にとって過度な負担が掛からない方法で実施されるものであること。	<ul style="list-style-type: none"> 実施要項（試験時間、実施方式、実施期間、受検料、標準返却期間等） 学校用実施マニュアル 実施支援体制（問い合わせ対応、トラブル対応等） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の実情に応じて実施できる方法であるか。 利用する学校において担うべき役割・作業等が明確にされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校単位で受検できること。 教科単位で受検できること。 継続的に受検できること。 利用する学校において担うべき役割・作業等を明らかにしていること。
情報開示に関するポイント	そのほか、学校等が活用を選択するのに際して必要となる情報が開示されていること。	<p>情報開示が必要と考えられる事項の例</p> <ul style="list-style-type: none"> 結果提供の範囲（設置者への提供等） 個人受検の可否 障害のある受検者への配慮 セキュリティ・ポリシー 等 	<ul style="list-style-type: none"> 各事項についての取扱いが明確となっているか。 申請内容と実際の実施要項とに齟齬がないか。 ※ 実施要項に記載される場合には、実施要項の確認と一体的に行う。 	<p>次に掲げる事項について情報が開示されていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 申請書類等の記載事項 個人受検の可否 問題の公表の有無 学習状況等のアンケートの有無 障害のある受検者への配慮 事前/事後学習教材の有無 情報管理体制（セキュリティ・ポリシー、プライバシーマーク等）

注）「最終報告や実施方針等でこれまで示されてきた個別具体の主な実施内容」欄は、「高校生のための学びの基礎診断」実施方針2.（3）②実施内容に関する取扱いや高大接続システム改革会議最終報告の内容等を基に記載。同欄における明朝体の事項は、「申請において確認するポイント」欄に記載された事項と同趣旨のもの。

測定ツールの選択イメージ例

各学校の実情や受検料負担等を踏まえ、適切な測定ツールを、必要に応じて組み合わせながら選択・活用

